

男女共同参画学協会連絡会 2025 年 女性比率調査

本報告では、男女共同参画学協会連絡会に加盟している学協会（正式加盟学協会およびオブザーバー加盟学協会、計 116 学協会）を対象に、2025年 2025 年 9 月 1 日～10 月 20 日に行われた女性比率調査の主要な結果を示す。調査では、(1)会員数、(2)役員、(3)各委員会、(4)年会シンポジウムおよび学会賞、における女性比率について質問項目が設けられた。調査期間中に計 94 学協会からの回答があった。このうち、女性の会員数の記録があったのは 93 学協会であった。

以降に示す図では、各学協会の会員総数における女性比率を横軸とした。縦軸に示した各項目に性別の偏りがなければ、縦軸と横軸の女性比率はおよそ同程度になる ($Y=X$ の点線近くに点が位置する) ことが予測される。また、各学協会は5つの学問分野に分類して異なる色で示した。学問分野の分類では、2023年調査時と同様に、各学協会の名称とウェブサイトの情報を参照して分けた。なお、回答のあった学協会の数は項目ごとに異なっている。

女性の会員数の記録があった 93 学協会について、会員総数における女性比率は平均 20.2 % (中央値 20.1%、0~98.7%) であった。会員総数の女性比率が 98.7% の日本女性科学者の会を除いて、会員総数における女性比率は学問分野ごとに異なる傾向がみられ、医学・歯学・薬学系（図中の凡例：赤色）が高い傾向にあり、生物学・化学・農学系（青色）と社会科学系（紫色）が中間的、情報学・工学系（黄色）と数学・物理学・地学系（緑色）では低い傾向にあった。

I. 学生会員の女性比率

学生会員の女性比率は会員総数の女性比率と正に相関し、会員総数の女性比率に対しておおむね 10%~20%ほど高くなっていた（図1）。一方、学生会員、法人会員、名誉会員等を除いた一般会員の女性比率は会員総数の女性比率とほぼ同程度で、5%ほど低くなっている学協会もあった（図2）。

図1.会員の女性比率と学生会員の女性比率の関係(N = 89)

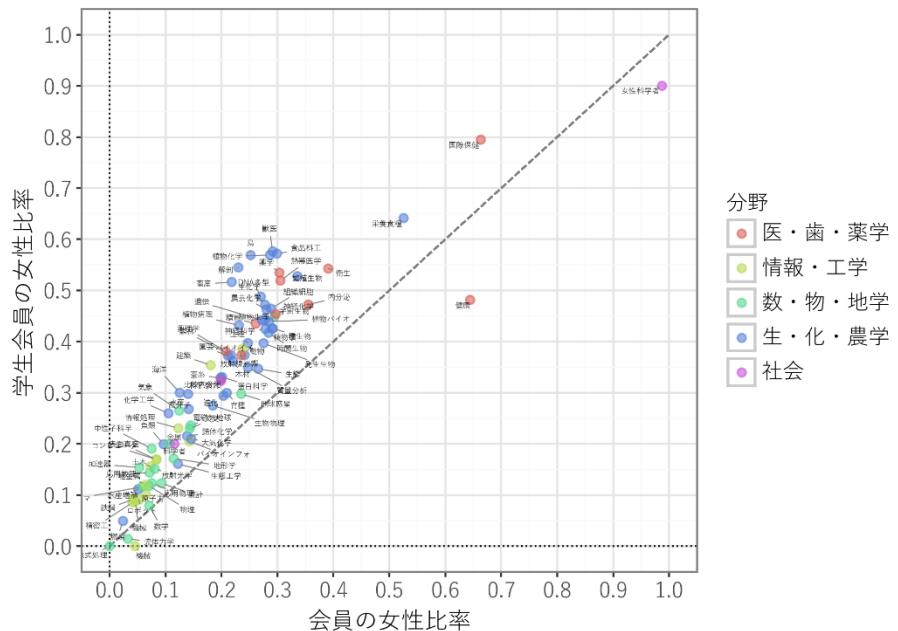
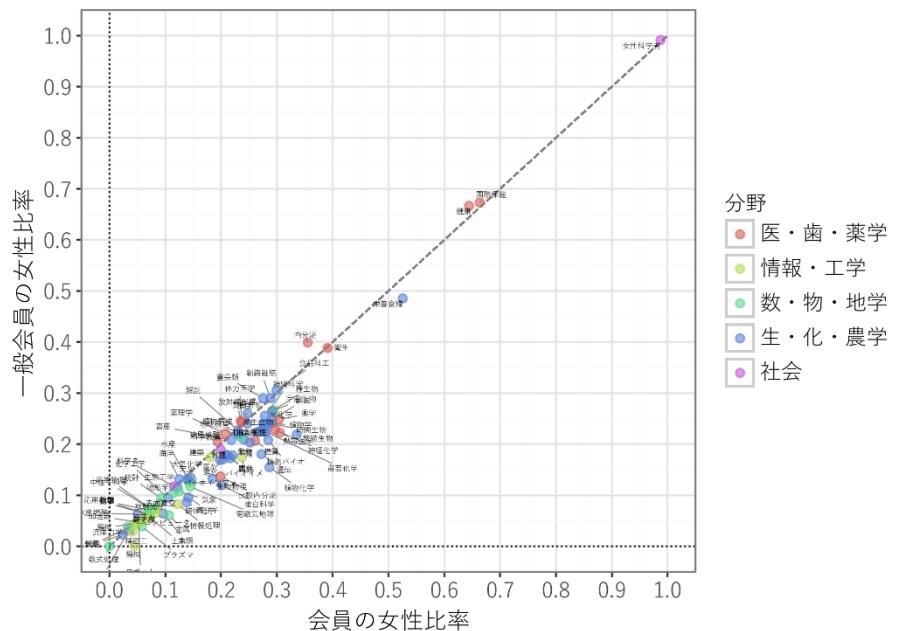


図2.会員の女性比率と一般会員の女性比率の関係(N = 93)



2. 役員・委員の女性比率

会長・副会長の女性比率は、0%に近い学協会がおよそ3分の2を占めた（図3）。残りの3分の1の学協会については、会員総数の女性比率とおよそ正に相関し、会員総数の女性比率に対して高くなっていたが、その割合には10%～100%と大きなばらつきがあった。

理事・幹事の女性比率（図4）および代議員・評議員の女性比率（図5）は、会員総数の女性比率と正に相関したものの、 $Y=X$ の点線の周りに散らばった。また、会員総数の女性比率が高い学協会において、理事・幹事および代議員・評議員の女性比率が会員総数の女性比率よりも低い値を示す学協会が多い傾向にあった。

図3.会員の女性比率と会長・副会長の女性比率の関係(N = 89)

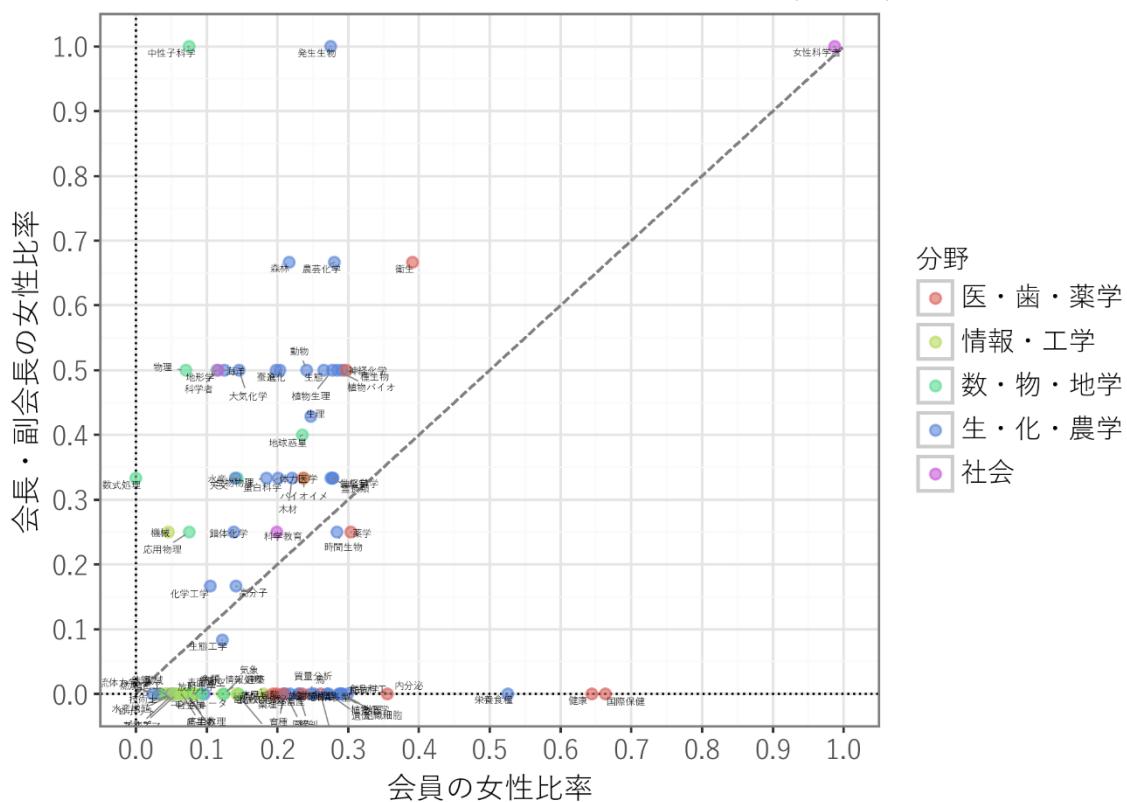


図4.会員の女性比率と理事・幹事の女性比率の関係(N=90)

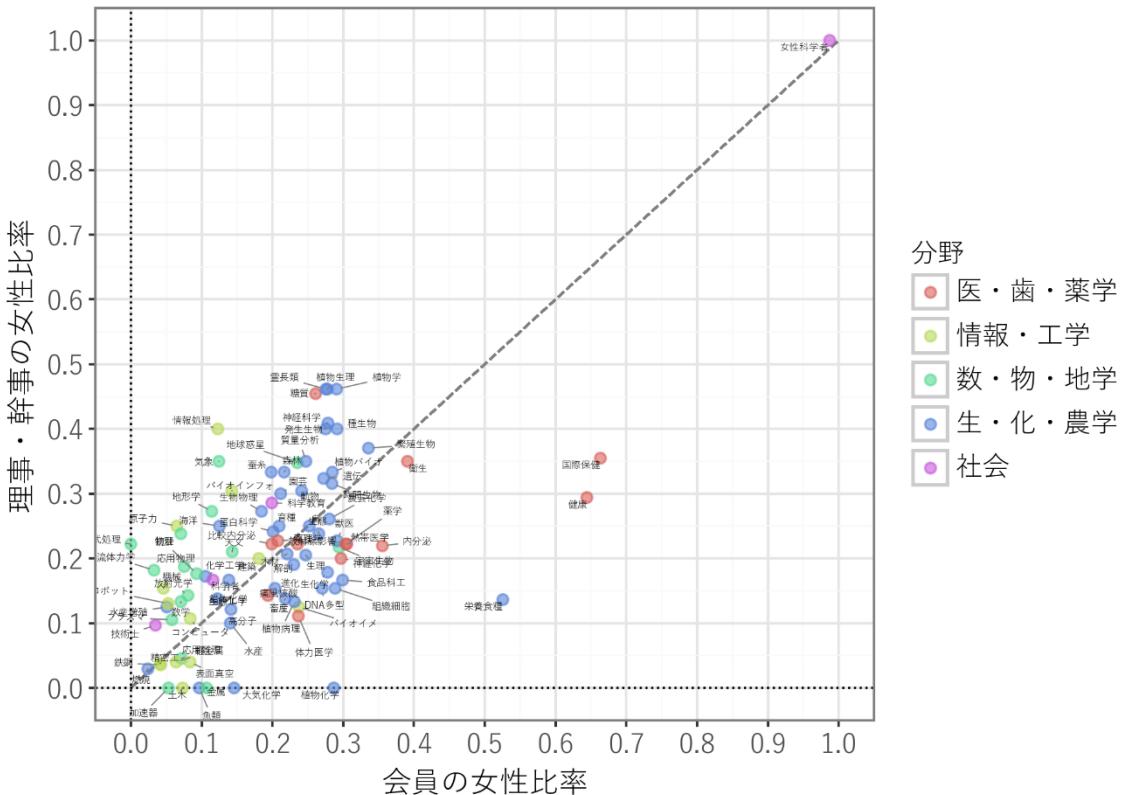
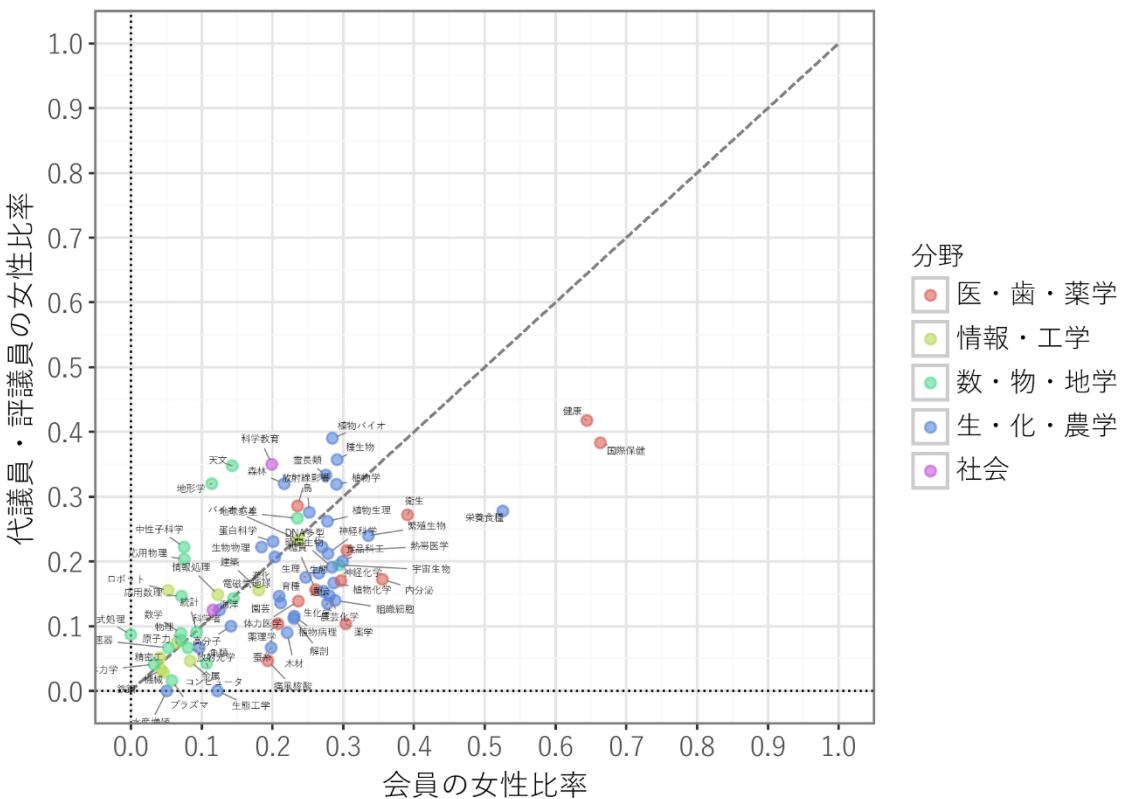


図5.会員の女性比率と代議員・評議員の女性比率の関係(N = 74)



3. 各委員会の女性比率

会誌編集委員の女性比率(図6)および和文論文誌編集委員の女性比率(図8)は、会員総数の女性比率と正に相関したものの、 $Y=X$ の点線の周りに散らばった。一方、英文論文誌編集委員の女性比率は、全体的に会員総数の女性比率よりも低い値を示す学協会が多い傾向にあった(図7)。

男女共同参画学の女性比率は、会員総数の女性比率よりも高い値を示す学協会が多い傾向にあり、会員総数の女性比率にかかわらず 60%程度であった(図9)。その他の委員会委員の女性比率は、会員総数の女性比率と正に相関したものの、 $Y=X$ の点線の周りに散らばった(図10)。

図6.会員の女性比率と会誌編集委員の女性比率の関係($N = 74$)

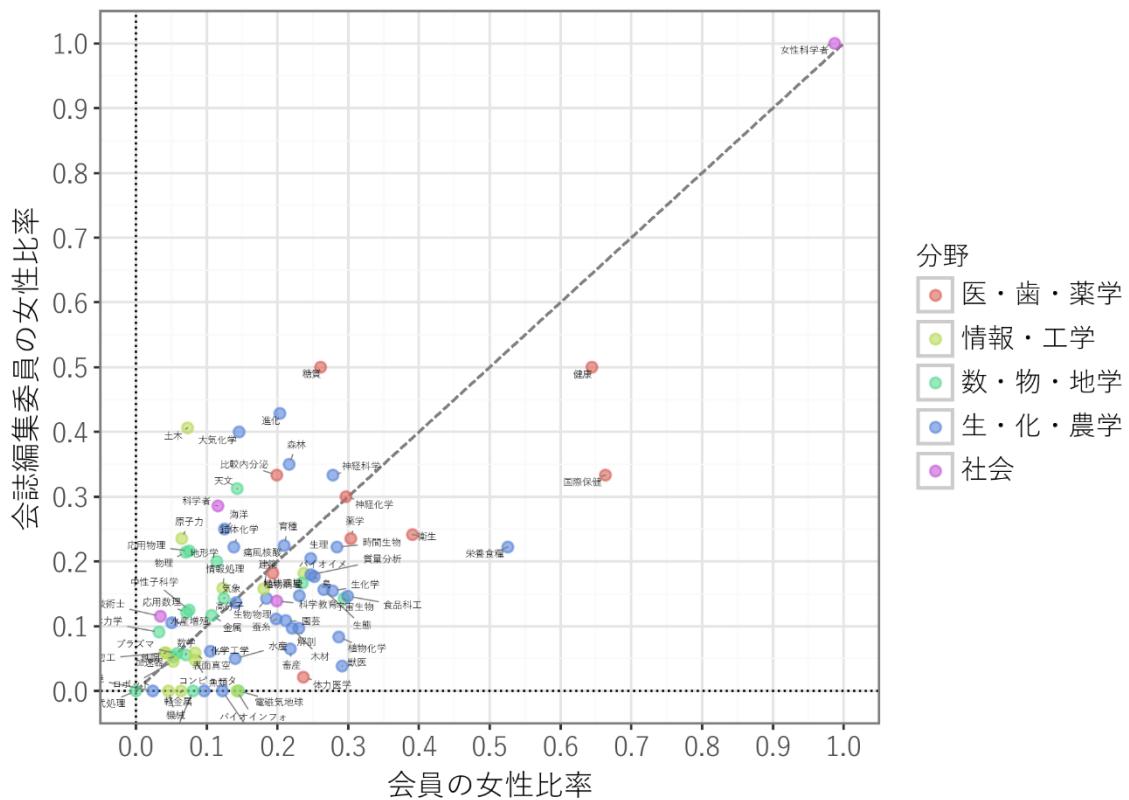


図7.会員の女性比率と英文論文誌編集委員の女性比率の関係(N =62)

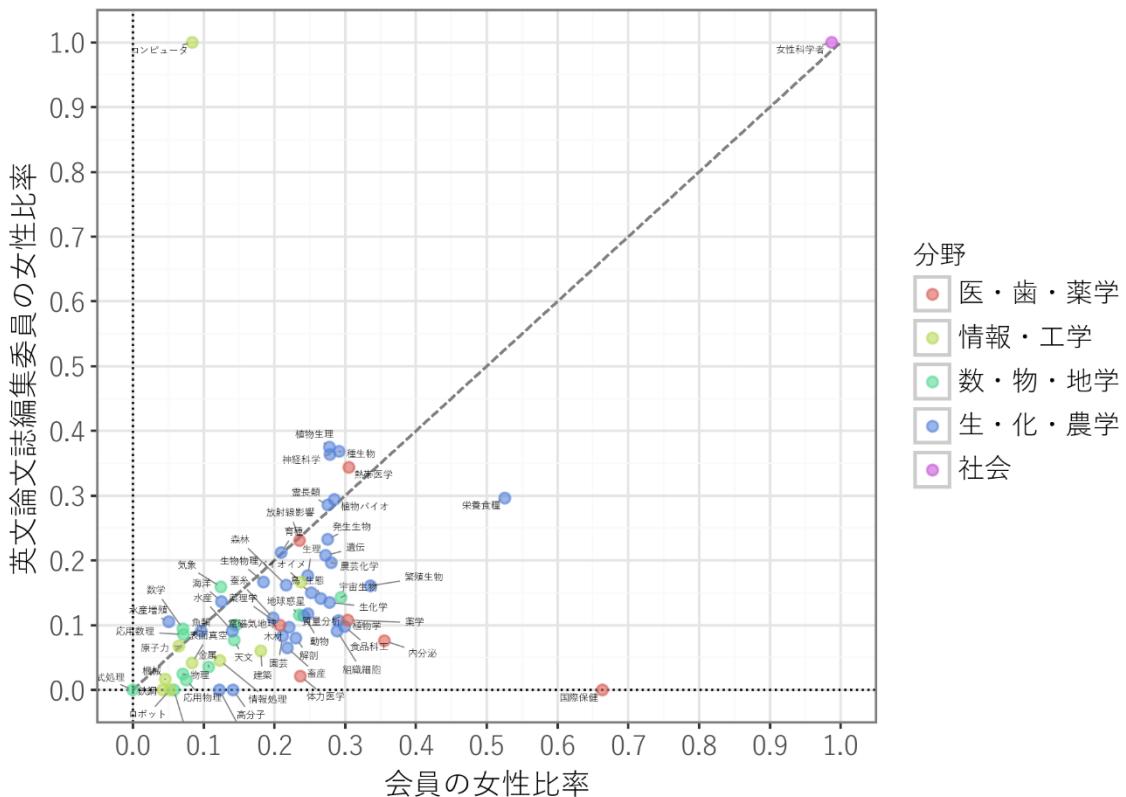


図8.会員の女性比率と和文論文誌編集委員の女性比率の関係(N =50)

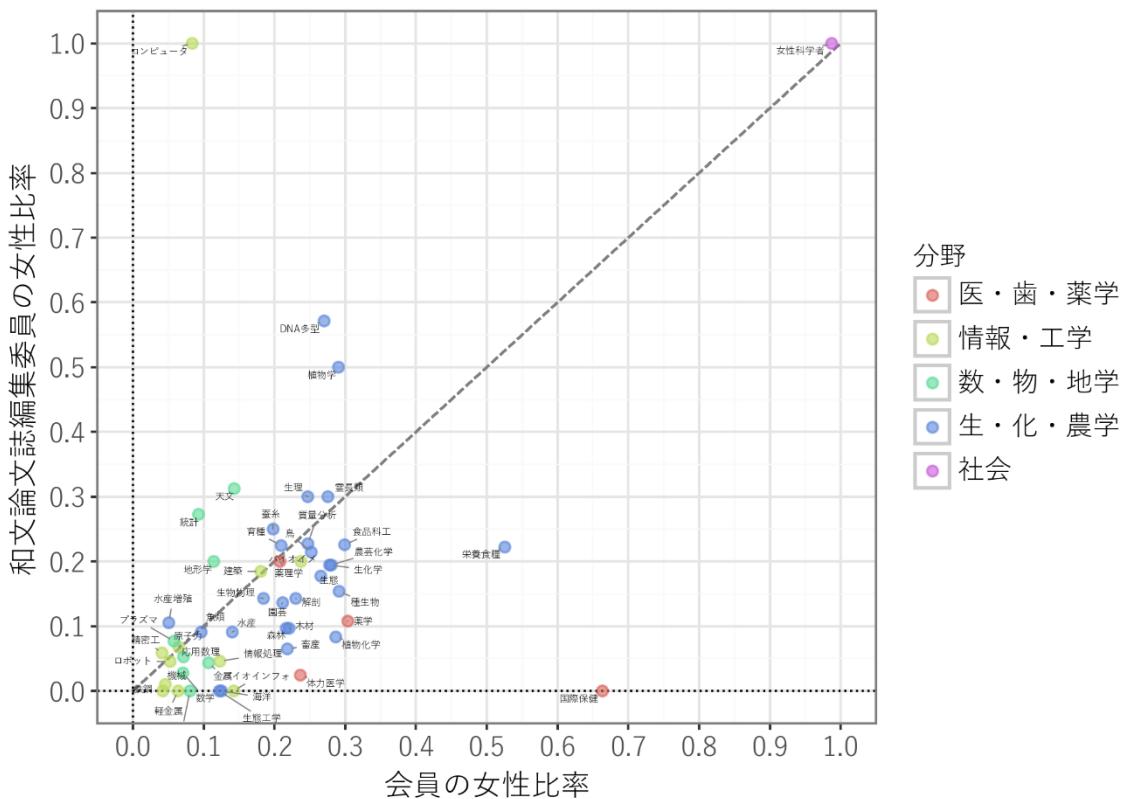


図9.会員の女性比率と男女共同参画委員の女性比率の関係(N = 82)

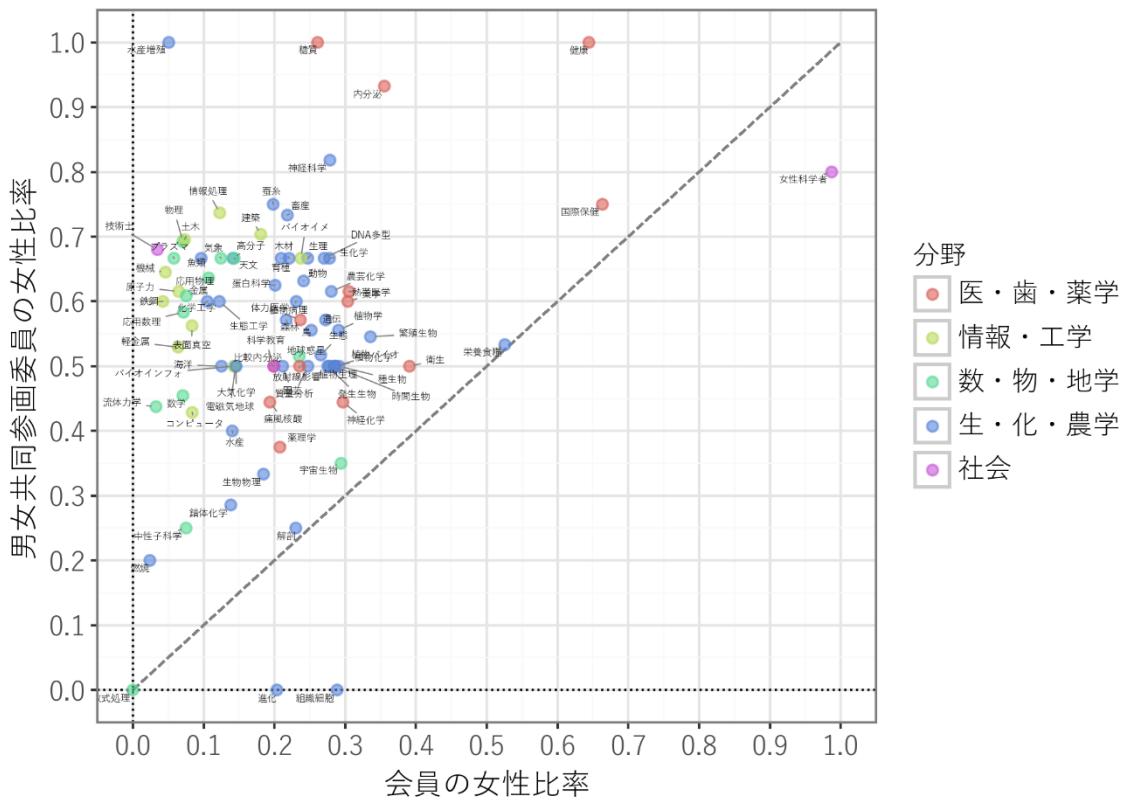
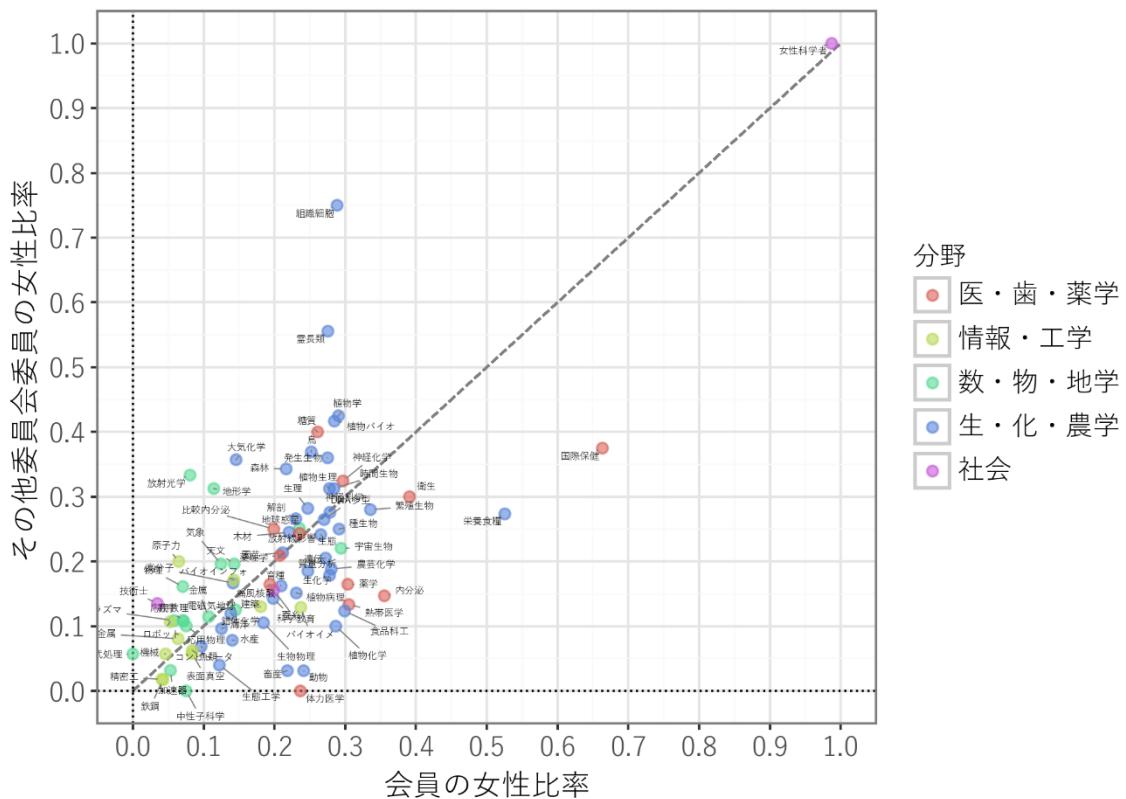


図10.会員の女性比率とその他委員会委員の女性比率の関係(N = 80)



4. 年会シンポジウムおよび学会賞の女性比率

年会での学術シンポジウムオーガナイザーの女性比率は、会員総数の女性比率と正に相関したものの、全体的に会員総数の女性比率よりも低い値を示す学協会が多い傾向にあった（図11）。一方、年会での学術シンポジウム講演者の女性比率は、会員総数の女性比率と正に相関し、 $Y=X$ の点線の周りに散らばった（図12）。

若手研究者のみを対象とする奨励的位置づけのものを除いた学会賞受賞者の女性比率は、会員総数の女性比率にかかわらず0%の学協会が半数以上を占めた（図13）。それ以外の学協会については会員総数の女性比率と正に相関したもののはらつきが大きく、生物学・化学・農学系（青色）で会員総数の女性比率に比べて20%～30%ほど女性比率の高い学協会もあった。一方、若手研究者のみを対象とする賞（図14）およびその他の賞（図15）の受賞者の女性比率では、0%の学協会の割合は少なくなり、会員総数の女性比率と正に相関したもののはらつきが大きかった。その他の賞の受賞者の女性比率では、会員総数の女性比率の低い学協会においても、会員総数の女性比率よりも高い値を示す学協会が多くあった。

図11.会員の女性比率と大会での学術シンポジウムオーガナイザーの女性比率の関係(2023-2024年度)(N = 74)

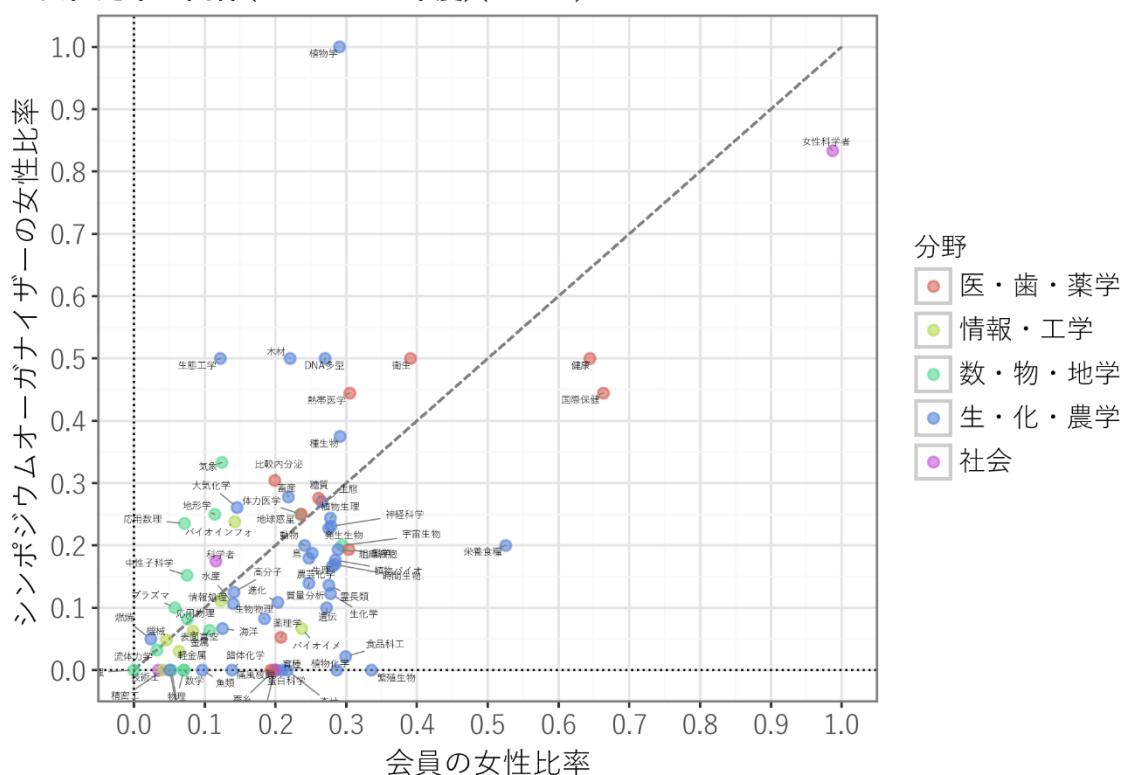


図12.会員の女性比率と大会での学術シンポジウム講演者の女性比率の関係(2023-2024年度)(N=71)

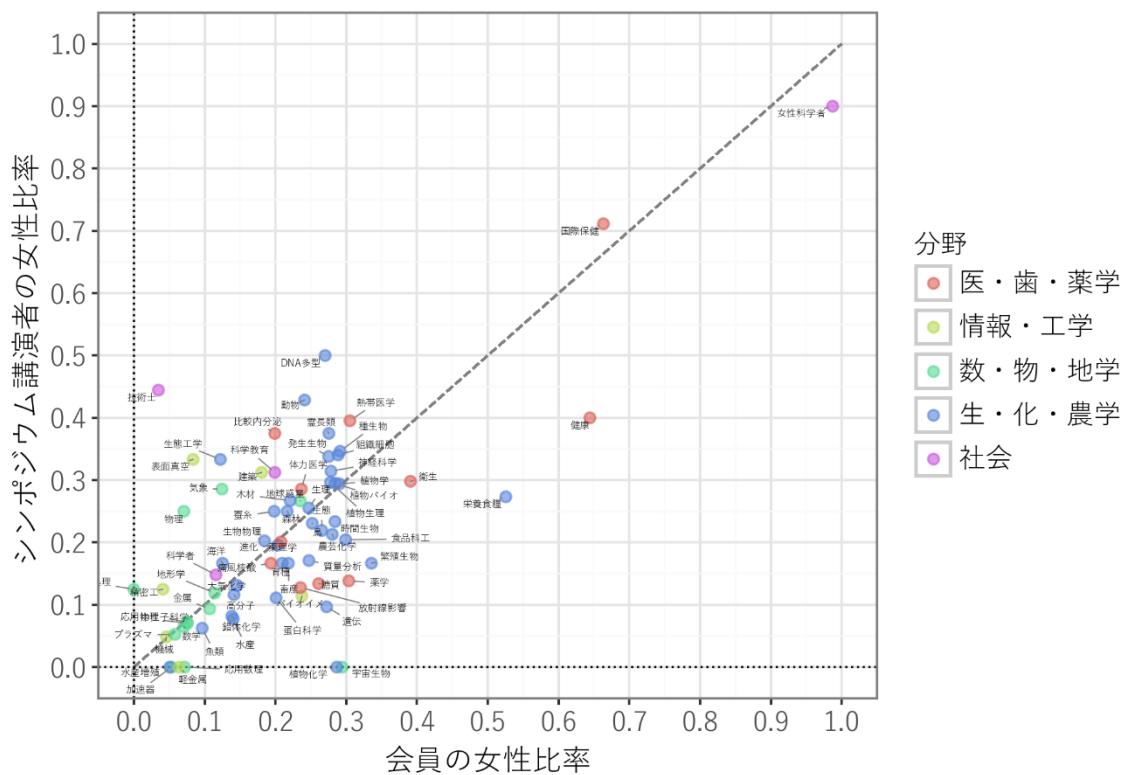


図13.会員の女性比率と学会賞受賞者の女性比率の関係(2023-2024年度)
(若手研究者のみを対象とする奨励賞的位置づけのものを除く)(N=72)

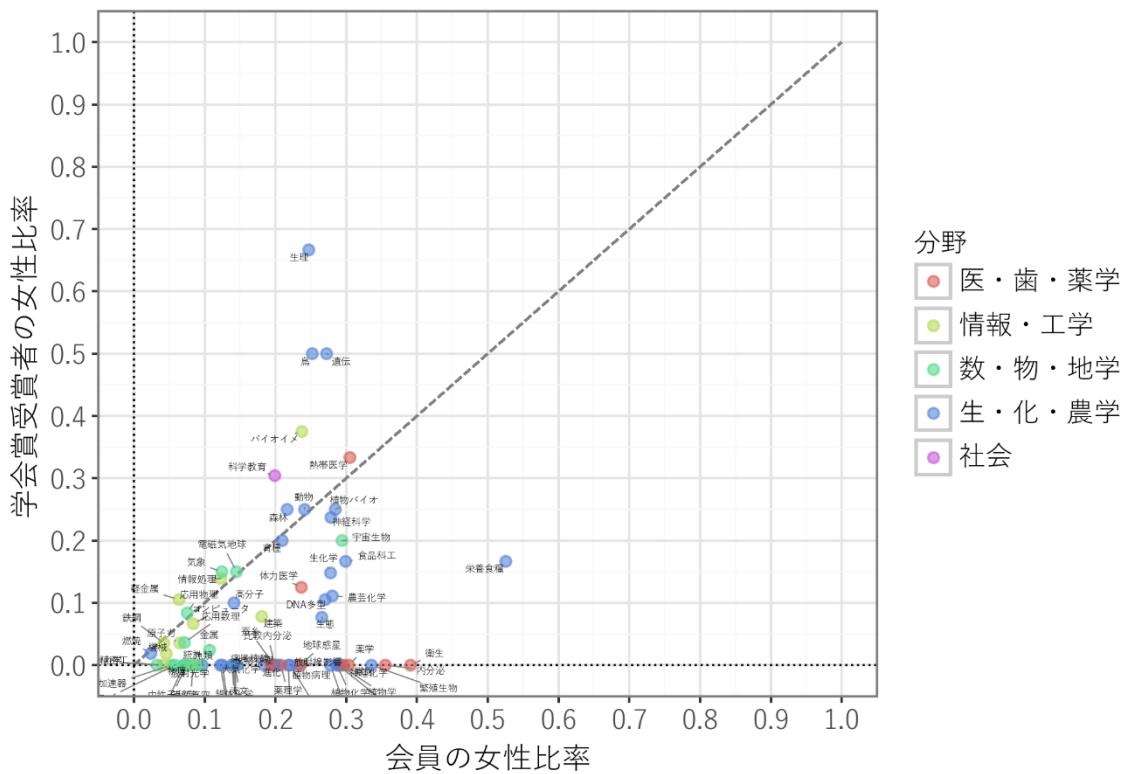


図14.会員の女性比率と若手研究者のみを対象とする賞の受賞者の女性比率の関係(2023-2024年度)(N =82)

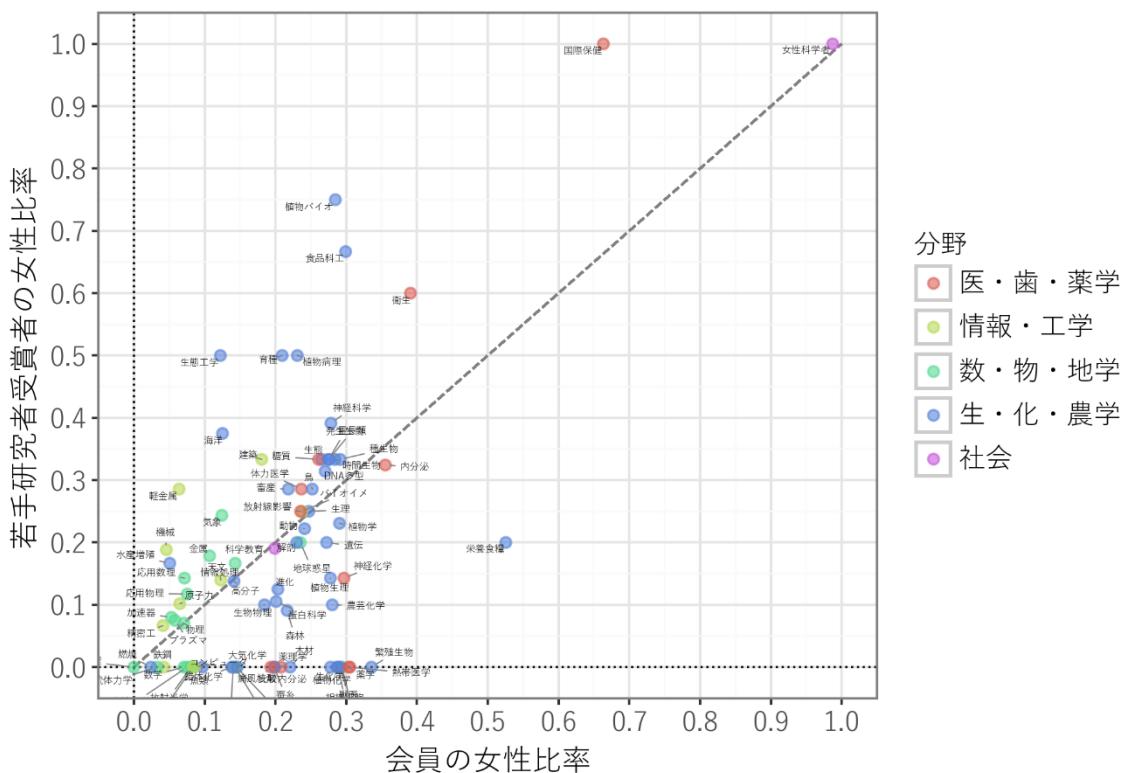


図15.会員の女性比率とその他の賞の受賞者の女性比率の関係(2023-2024年度)(N =61)

